

県感染症情報センター

声なき感染症を知る ◆12◆

水痘(すいとう)、いわゆる「みずぼうそう」のワクチンが、昨年10月から定期接種となりました。原因ウイルスは、水痘と帯状疱疹(たいじょうほうしん)という二つの病気を引き起こします。今回は病気と、そのワクチンについてお話しします。

感染などで、口や鼻から体の中に侵入すると考えられています。水痘の液にはウイルスが含まれており、小さな子供ではかきむしって、他の人につけてしまつたため、すべての水疱がかさぶたになるまで、登園・登校はできません。

流行は冬から春にかけて多く、潜伏期はほぼ2週間です。一度感染したら、免疫ができるので、再び水痘になることはありません。稀(まれ)に大人になって初めて感染

潜伏し続けているのです。何十年も経つて、体力の低下や過労、病氣、老化などで抵抗力が弱くなった時に活動しはじめ、顔や胸などの神経にそつて(体の)片側に強い痛みを伴う帯状の水疱が現れることがあります。これが帯状疱疹です。多くは50歳以上で発症します。つまり、このウイルスは、二つの病気のもととなります。

▽ワクチンについて
全世界で使用されている水痘ワクチンは日本のウイルスを弱毒化したもので、世界保健機関(WHO)により安全性と予防効果を認められ、2回の接種で発症を予防することができま

水痘(みずぼうそう)と帯状疱疹

ワクチン無料化に
定期接種で予防を

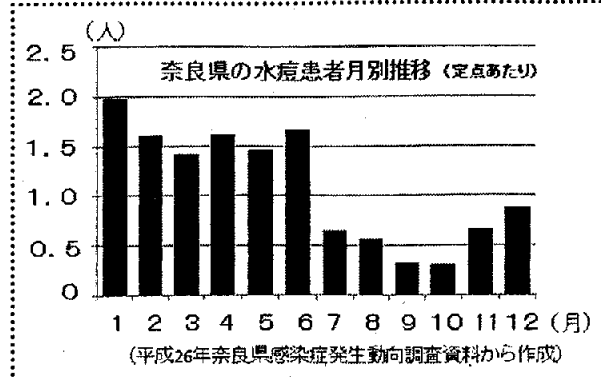
すると水痘になります。症状は水疱(みずぶくれ)性の発疹を特徴とします。

感染経路は空気感染、飛沫(まつ)感染、接触

すると、高い熱と痛みを伴う水疱ができるのが特徴で、肺炎などの合併症を起しやすいと言われています。

また、妊娠初期に感染すると、先天性水痘症候群と呼ばれる、乳児に障害を起すこともあります。

▽帯状疱疹とは
子供の時に感染したウイルスは、水痘が完治しても、体内の神経節



奈良県の水痘患者月別推移(定点あたり)

(平成26年奈良県感染症発生動向調査資料から作成)

にウイルスは

接種の対象年齢は生後12カ月から36カ月未満で、1回目の接種から3カ月以上の間隔をあけて2回目を行うことになっています。定期接種となったことで自己負担はありません。詳細については、かかりつけの医療機関か、お住まいの自治体に相談ください。
水痘ワクチンは、帯状疱疹も減少させるという報告が多く、子供を水痘から守るのももちろんですが、将来、発症するかもしれない帯状疱疹を減少させることも期待されています。
(県感染症情報センター) ↓
第2木曜日掲載